令和4年度筑波大学附属図書館特別展

孔子をまつる

歴聖大儒像の世界

2022年

11月2日（水） 13:30〜15:00

特別講演会

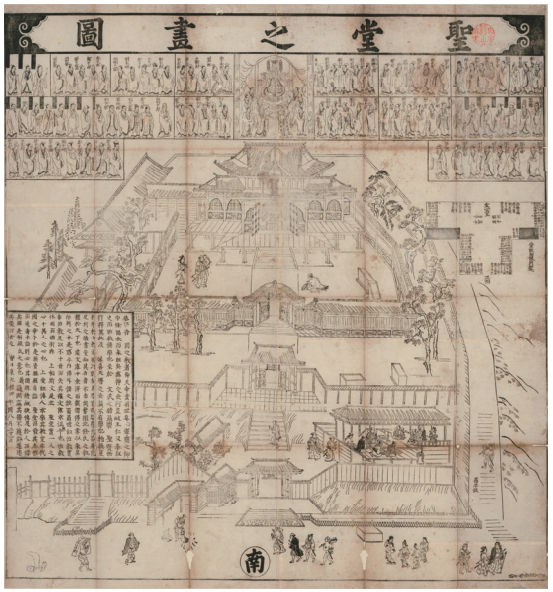
狩野山雪「歴聖大儒像」の伝来と魅力

寛永9年（1632）、京都で活躍した絵師の狩野山雪は、寛永の三筆の一人である松花堂昭乗の斡旋により「歴聖大儒像」を制作しました。この作品は、合計21幅におよぶ肖像画で、伏羲や武王、孔子や朱子などの中国歴代の帝王や聖人、儒学者で構成されています。幕府に仕えた儒学者の林羅山の学問所先聖殿のために制作されたもので、朝鮮通信使の副使であった金世濂による賛文があります。18世紀には東京・湯島聖堂に伝来し、現在は、筑波大学附属図書館と東京国立博物館に所蔵されています。作品の魅力もさることながら、制作状況や現在に至る伝来過程が判明することから、近世初期の日本美術史上、屈指の名作として位置づけることができます。

講演では、制作背景や伝来について確認し、本作の魅力について余すことなく紹介します。

講演：水野裕史
（筑波大学芸術系助教）

会場：筑波大学
中央図書館集会室
※申込み不要 (学内者限定)



左：『歴聖大儒像（朱子像）』本学所蔵
右：『聖堂之画図』本学所蔵

創基151年
筑波大学50周年記念
50TH ANNIVERSARY OF UNIVERSITY OF TSUKUBA